

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072700380
法人名	社会福祉法人 ほうらい
事業所名	グループホーム ほうらい
所在地	福岡県豊前市大字今市 135-1
自己評価作成日	平成24年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年8月3日	評価結果確定日	平成24年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関を一步入ると木目の高い天井と広々としたリビングがあり、天窓・中庭より自然な光が差し込んでいます。キッチン及び食堂はリビングにあり、遮るものはなく広々と開放的な造りになっている。施設まわりの環境も良く市街地に位置している。母体に老健があり連携体制にある。また利用者の重度化にともないスタッフ一丸となって日々介護にあたっている。利用者ひとり々に適した支援を心掛け、毎日を穏やかにそして楽しく過ごせるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊前市役所に近い住宅地に位置し、周辺は少しずつ開発が進み、大型店舗の進出等、町並みも賑やかになっている。天井の高い、広々としたホーム内は、天窓や回廊式の中庭から自然光が差し込み、木の温もりや障子の設置等による和の雰囲気作りや、ゆとりをもって設置されたオープンキッチン等、各所に居心地の良い暮らしの場所であるための配慮が行われている。幅広く福祉事業を展開する法人としての連携を活かしながら、様々な取り組みにおいて細やかな配慮やサービス向上への意識が伝わってくる。特に、センター方式の活用や、本人本位の暮らしを反映した介護計画作成を通じて、ライフスタイルの継続や力を発揮する場面を支援しており、関係者間での共有が図りやすい具体的な内容が確認できる。少しずつ重度化が進む中で、喜・怒・哀・楽のある生活の場として、個別性を大切に捉えながら、1ユニットの特性を活かした支援の充実に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の経営理念とケア方針を掲示し、常日頃より職員に意識してもらっている	地域密着型サービスとしての運営理念やケア方針を掲げている。また、2ヶ月ごとに接遇目標を設定する等、実践につなげる取り組みが行われている。新人研修では、理念の共有や理解を重視している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時より自治会に加入しており、地域の祇園や保育園行事や道路愛護(草取り)等に参加している	自治会に加入しており、回覧板等による情報共有を図っている。保育園行事や地域の祇園への参加、職員が道路愛護活動に参加する等、地域との交流の機会を持っている。中学校や高校、専門学校の体験学習や実習の受け入れを行い、ボランティアの来訪の機会もある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学、高校生の体験学習を受け入れており、毎年学生が実習に来訪している。又、専門学生の実習受け入れも行い認知症への理解や支援を活かしている	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期開催されており、全家族へ毎回案内状を出している。利用者状況や行事内容、介護報酬改定、実習生の受け入れ、感染症対策等について報告や話し合いが行われており、意見交換の機会ともなっている	運営推進会議は、家族、民生委員、近隣住民代表者、地域包括支援センター職員、市職員等の出席を得て、定期開催されている。事業所の状況報告や地域からの情報提供をもとに意見交換が行われ、サービスの向上につなげるよう取り組んでいる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者介護対策係や地域包括センターにホーム便り届けており、市町村担当者と連携により、情報収集の共有に努めている	豊前市役所にも近く、担当課や地域包括支援センターにホーム便りを届けている。地域包括支援センターとの連携により、地域の様々な事例に対応している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがあり、学びの場を設け、全ての職員が身体拘束を行わない事の勉強会を行っている。日中は施錠を行っておらず、地域住民の協力や隣接する同法人事業所との連携により、声かけや連絡をしてくれる関係がある	日中、玄関の施錠は行っていない。マニュアルの整備や研修の実施、また、家族とも共有認識を図りながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉や対応による行動抑制や、薬による抑制についても意識を持った支援が行われている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の時などに高齢者虐待について学びの場を設け、常に利用者に注意を払い、防止に努めている。	

福岡県 グループホーム ほうらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族には入居時に、権利擁護に関する制度について説明を行っている。現在制度を活用している人はいないが、必要に応じ資料を準備し、支援出来る様理解を深め、学びの場を設けている	入居時に、成年後見制度や日常生活自立支援事業について説明を行っている。現在、権利擁護に関する制度を活用している方はいないが、資料の整備や、研修計画の中に位置付け、学ぶ機会を確保し、活用に向けた支援が行えるよう取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、利用者や家族に必ず、説明を行い理解、納得して頂いている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情相談窓口の案内を掲示している。運営会議時には事前にアンケートを配布し、運営・対応・意見等の記入をして頂いている。その内容については会議内にて相談するなど、運営に反映させている	運営推進会議の開催案内とともに、アンケート用紙を同封し、積極的に意見や要望の収集に努めている。また、毎月、各担当者による生活状況報告書が作成されており、情報共有に努めている。年1回、家族会が開催されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃より職員の意見や提案を聞き、改善に反映させている。賞与時などでは自己評価として意見提案を記入する欄を設け、フィードバックにて確認出来る様になっている	月例会議に参加できない職員にも、事前に意見を収集し、会議の場で代読している。入居者の身体状況に応じた浴室の環境整備等、実際に反映されている事例も多い。年2回、自己評価や個人面談を実施し、また、ターミナルケア後には職員アンケート調査を実施する等、職員個々の実績や向上心、やりがいを持って働けるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	条件により、資格者には手当を付ける等働きやすい条件の整備と賞与時には職員個々の意見を聞き職場環境の把握にて改善出来る様努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人としての募集・採用となるが、性別や年齢は判断基準には含まれていない。ホームで働く職員においてもその能力が発揮できる様に配慮している	法人としての採用となり、管理者も面接に参加している。やる気や高齢者が好きな方を重視し、年齢や性別による排除は行っていない。慰安旅行や忘年会等、様々な福祉事業を展開する法人内の交流の機会も多い。産休や育休の取得、復帰に向けた配慮等、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議等の場において、勉強会の機会を設け、倫理研究の資料の参照を行っている。また法人よりモラロジー講演参加の機会設けている	人権、倫理、尊厳、権利擁護、プライバシーについて等を研修計画の中に位置付けながら、職員の意識を高め、人権教育、啓発に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム ほうらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修があり、ホームとしても年間研修計画を作成し、実行している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員等の人脈を通じて、グループホームとの交流の機会があり、相互訪問や情報交換が行われている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様、了解のもと、なるべく事細かなコミュニケーションと観察により、信頼関係を築き、利用調査を行っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでに家族の方の所に訪問したり、来所して頂いたりして、相談やアドバイスを行っている。場合によっては、同敷地内にある居宅支援事業所も交え相談援助を行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人と家族の望む支援を共に考え、場合によっては、同敷地内にある居宅支援事業所とも相談の上、対応に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スーパーへの買い物や調理、家事全般など出来る方は一緒に行うようにしている。昔の歌を教わったり、日々の暮らしの中で学ぶことも多く、「ありがとう」と言う感謝の言葉を伝えることを忘れない様になっている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	記念日の面会や季節の衣替えを家族の方にして下さる様をお願いをし、利用者の状態を共に知ることを心掛けている。家族の家で採れた野菜や果物、手作り料理を頂くこともある		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居される前の友人や知人の面会を家族の方に来て頂くように声かけを行ったり、馴染みの場所や住んでいた所に行ってみたり、出来るだけ支援できる様努めている	センター方式を活用し、馴染みの関係性の把握に努めている。昔から利用している美容院の協力を得て、送迎のみ支援し、馴染みの場所での時間を過ごしたり、外出の際に自宅に立ち寄る等の支援を行っている。	

福岡県 グループホーム ほうらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に職員が中に入り、利用者同士がうまくいく活動が出来る様に場所の提供など見極めに努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も御本人を訪問したり、家族の方とお会いしたとき等は状況を伺ったりして、心遣いに心掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の状態や生活歴、ライフスタイル等を把握し、家族にも要望を伺い、本人本意に検討している	センター方式を活用し、詳細に情報収集が行われている。個別のカンファレンス等を通じて、思いや意向の把握に結び付けている。本人、家族の参加する担当者会議が開催され、職員の参加も多く、介護計画への反映が確認できる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や家族からの情報収集の他に相談員等からも情報収集を行い、一人一人の馴染みの仏壇などを置き、生活環境の変化の軽減を行っている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックと共に顔色や表情の観察を行い、申し送り等により状態の把握をして職員間の申し送りを行っている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を大切に、職員の意見を反映しながら、介護計画を作成している	本人、家族の意向が反映され、個別性ある介護計画が作成されている。具体的に、わかりやすく記載され、共有しやすい内容となっている。役割作りやライフスタイルの継続についても視点を持ち、目標が設定されている。日々の実施記録や評価を通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、昼夜を通して実践し、個別に記録している。変化のある場合は申し送り、見直しを行い次の介護計画に活かしている		

福岡県 グループホーム ほうらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて主治医や母体の老健や同敷地内の居宅支援事業所等と連携をとり、福祉用具の利用時にはOT・PTとの連携もある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会参加により、近隣の方々、区長や民生委員の方とのパイプ、近隣の高校生の実習受け入れや保育園行事への参加等協力し、支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれに主治医があり、2週間に1回受診し、場合によっては主治医紹介状により他科受診の支援をしている	入居時に、かかりつけ医について確認しており、希望や状況に応じて、往診対応や受診同行等、適切な医療を受けられるよう支援している。看護計画が作成され、3ヶ月ごとに評価が行われている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが、正看護師が週1回勤務して利用者の状態を観察し、また介護職員からの個々の変化等申し送りをを行い対応、支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、管理者や看護師または他職員が入院先へ出向き、情報収集し、状態の把握に心掛けて対応を行い、早期退院出来るように努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期についての方針を説明し、同意を得ている。状況の変化があった場合には本人の意向を大切にしながら、家族、主治医、職員等との話し合いを重ねるようにしている	重度化や終末期のあり方については、入居時の説明や、センター方式への記載を通じて、方針の共有や意向確認を行っている。状況の変化に伴い、家族や医師を交え、話し合いを重ねている。法人内の専門職の連携も得ながら、これまでに看取りを行った経緯もある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導のもと、緊急マニュアルにそって、応急処置や吸引機、掃除機を使った吸引の勉強会をしている		

福岡県 グループホーム ほうらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに従い、避難訓練や通報訓練を行い、隣接している居宅支援事業所やヘルパー事業所やデイサービスや近隣の方からの協力を得られるようにしている	消防署の協力を得ながら、年2回、避難訓練を行っている。グループホームからの出火を想定し、隣接する居宅介護支援事業所や訪問介護事業所、認知症対応型デイサービスから応援に駆け付ける。また、事前通達無しに、緊急連絡網の確認を夜間帯で実施し、ホームへの到達時間を計測している。地域の緊急連絡網が作成されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	書類は鍵付きの戸棚に収納している。入居者の生活歴などを把握する際にはプライバシーに配慮し、入居者の誇りを損ねないように留意している。また接遇について目標を掲げたりして言葉かけに注意している	尊厳やプライバシーについて学ぶ機会を持ち、2ヶ月毎に接遇目標を掲げている。各所設置されているソファや居室等、一人で過ごすことが出来る場所やプライバシー空間を大切に捉えている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択、水分補給時の飲み物の選択など日々の暮らしの中で選んで貰う場面を作っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入浴、食事の時間等その時の入居者の状況により対応しており、個々のペースを大切にしながら、無理強いとならないよう支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは利用者が着たい物を支援している。散髪もそれぞれ馴染みの理髪店に行かれたり、美容院より来荘して頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、法人の管理栄養士の献立を基本とし、毎月のスタッフ会議で話し合いをしている。旬の野菜を取り入れたり、新鮮な魚をその日に配達してもらっている。準備のできる利用者には手伝って頂いている。	法人の管理栄養士による献立をもとに、希望を取り入れながらメニューを決めている。エプロンを着け、調理に力を発揮する方や、買い物への同行等を介護計画の中に位置付けている。ゆとりをもって設置されたオープンキッチンからは、調理の様子が伝わりやすい。希望に応じた個別の外食の機会も確保している。8時間ほどかけて甘酒をつくり、夜眠れない場合等に提供している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の老健の管理栄養士により、献立が作成されており、治療食や調理形態（ペースト、キザミ）等にも柔軟に対応している。身体状況により、栄養補助食品利用している。毎食の食事量や、利用者によっては水分チェックをしている。		

福岡県 グループホーム ほうらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人に声かけにて出来る方は自力にて行って頂き、出来ない方は介助にて行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表があり、排泄パターンの把握の共有により、排泄の自立に向けて誘導を行っている。排便困難時は服薬コントロール支援している	排泄チェック表を作成し、個別の状況や排泄パターンの把握に努めている。さりげない声かけやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や水分補給を行い、腹部マッサージなど行っている。歩行困難な方や車椅子の方などには出来るだけ身体を動かさず働きかけを心掛けている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴の準備を行い、希望や状況に合わせて柔軟に支援している。入浴拒否される方には、様々な工夫により入浴を促していくが、決して無理強いとならないように支援している。	ある程度の入浴スケジュールはあるが、毎日入浴準備を行い、希望や状況に柔軟に対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付けない方には居間にて飲み物を飲んで頂いたり、会話にて対応している。休息の必要な方には居間のソファや自室ベットにて休んで頂いている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容や副作用が解るように薬情報提供書ファイルを作成しており、職員が正しく服薬できるようにしている。症状の変化や副作用に注意している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほぼ毎日午前、午後レク活動を取り入れている歌や体操、机上作業(塗り絵、学習療法)など参加され楽しまれている。また能力に応じて役割を持てる場面作りに努めている。料理の手伝い、掃除、家事作業など支援している		

福岡県 グループホーム ほうらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望や状況に合わせ、毎日の食材の買い物や散歩に、日常的に外出している。家族などにも声掛け行い支援して頂いている	少しずつ重度化している状況の中ではあるが、毎日の食材の買い物や個別の夕食、散歩等に出掛けている。受診の際や外出時に自宅に立ち寄ったり、馴染みの美容室への送迎を行う等の個別支援も行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者の方は自己管理困難ではあるが、外出時にお金を渡し、本人に払って頂く事もある		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人希望時には、家族に電話の取り次ぎを支援している。また手紙の書ける方にも希望時お手伝いの支援行っている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井は高く、広さのあるリビングには、天窗や中庭から自然光が差し込み、間仕切りも無い為開放感がある。回廊式の廊下はソファやテーブルがあり、好きな場所を選ぶ事が出来る。対面式のキッチン調理をしながら見守りや会話出来る	天井の高い、ゆとりある広さのリビングが印象的である。各所にソファも配置され、賑やかな団欒や一人になれる場所としても活用されている。中庭を中心として回廊式となっており、季節に応じた手作り作品が飾られている。木の温もりや、障子の設置等による「和」も感じられ、各所に居心地良く過ごせるよう配慮がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	回廊式の廊下になっており、所々にソファやテーブルがあり、自由に使用できる		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台やベット、タンスが備え付けられており、馴染みの家具や仏壇、使い慣れた物が持ち込まれており、それぞれの配置や飾りがなされている	居室には、洗面台や窓際の棚が備え付けられている。テーブルセットや仏壇、テレビ等が持ち込まれ、生活感ある居室が多い。また、家族の写真や大切な品を飾る等、安心して過ごせるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下には補助棒及び手摺を付けたり、各居室や浴室、トイレなどにはわかり易い目印として、ネームプレートやのれんを付けたりしている		